

那珂川町の文化財 VII

— 観音堂遺跡群の発掘調査 —



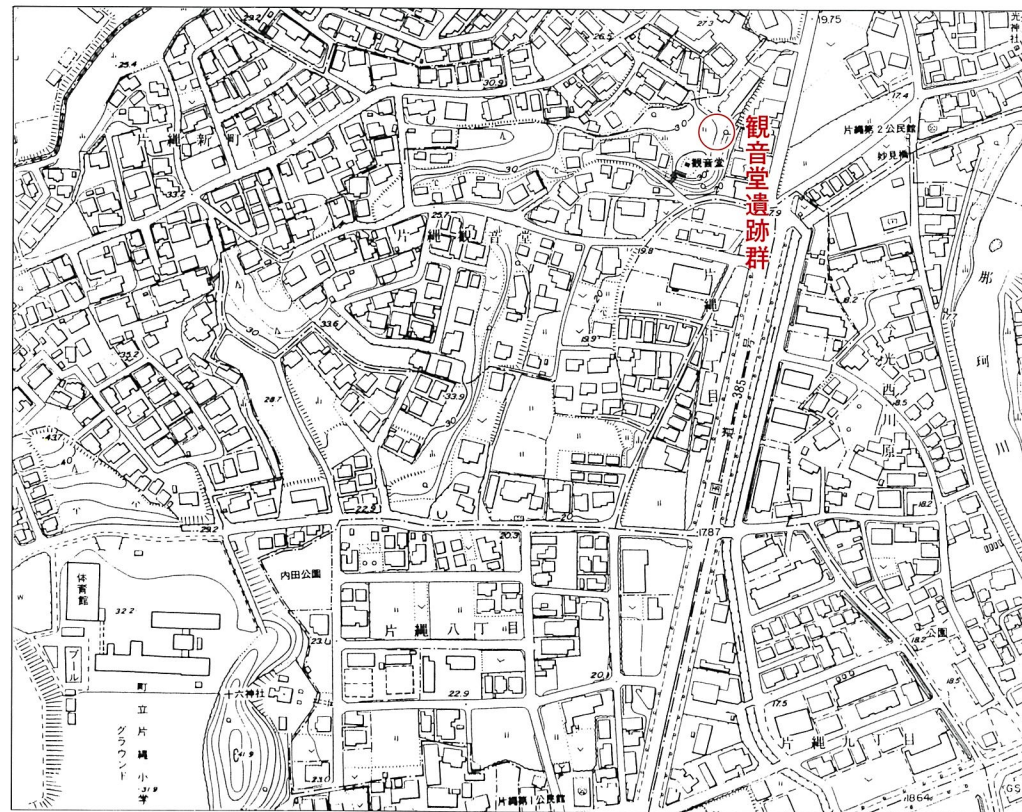
1987年調査

1995年
那珂川町教育委員会

はじめに

那珂川町では毎年数多くの開発が行われており、消滅してしまう遺跡については発掘調査による記録保存を行っています。これから紹介する観音堂遺跡群は片縄の観音堂一带に広がる丘陵の上で発見された遺跡で、宅地開発に先立って1987年と1992年に調査を行いました。

二度の調査の結果、縄文時代から中世までの遺跡が数多く発見されましたが、なかでも遺跡の中心となったのは弥生時代です。弥生時代の遺跡は木棺墓3基・カメ棺墓91基・石ぶた土壌墓1基で、約2,000年前、この地が共同墓地であったことがわかりました。また、カメ棺内からは日本で初めて貝釧を装着した様子が分かる幼児の人骨が出土し、当時の社会を知るうえで大変貴重な発見もありました。それでは、弥生時代を中心に古代の観音堂をのぞいてみましょう。



遺跡の場所 (1/5,000)

カメ棺墓ってななに

カメ棺墓とはカメや壺に死者を入れ埋葬する方法で、弥生時代（約2,300～1,700年前）北部九州を中心にさかんに行われました。始めの頃は小型のものが多く、ふだん使用していた土器をお棺として用いたようですが、中頃（観音堂遺跡群と同じ時代）になると、高さが1mを越す大型のものも多くあらわれ、お棺専用として作られるようになります。大型のカメ棺を作る技術は現在でも難しく、専門に作る人々がいたのではないかとわれています。また、韓国の釜山からも同様なカメ棺墓が発見されており、北部九州と韓国との間で交流があったことを示しています。



目張りの様子

21号カメ棺墓

二つのカメの口と口を合わせて使用したもので「合わせ口式」と呼ばれています。カメの合わせ目には、土や水が入り込まないように粘土で丁寧な目張りを行っています。右上の写真は接合部と目張りの状態を横から写したものです。



9号カメ棺墓

上と左の写真は「単棺」といい、1つのカメをお棺として使用したものです。73号カメ棺墓は平らな石をふたとして用いています。9号カメ棺墓は板をふたとして用いていたようです。



73号カメ棺墓

全体図 (250分の1)



1号土壙
縄文時代晩期（約3,000年前）
のもので、お墓とも考えられま
す。



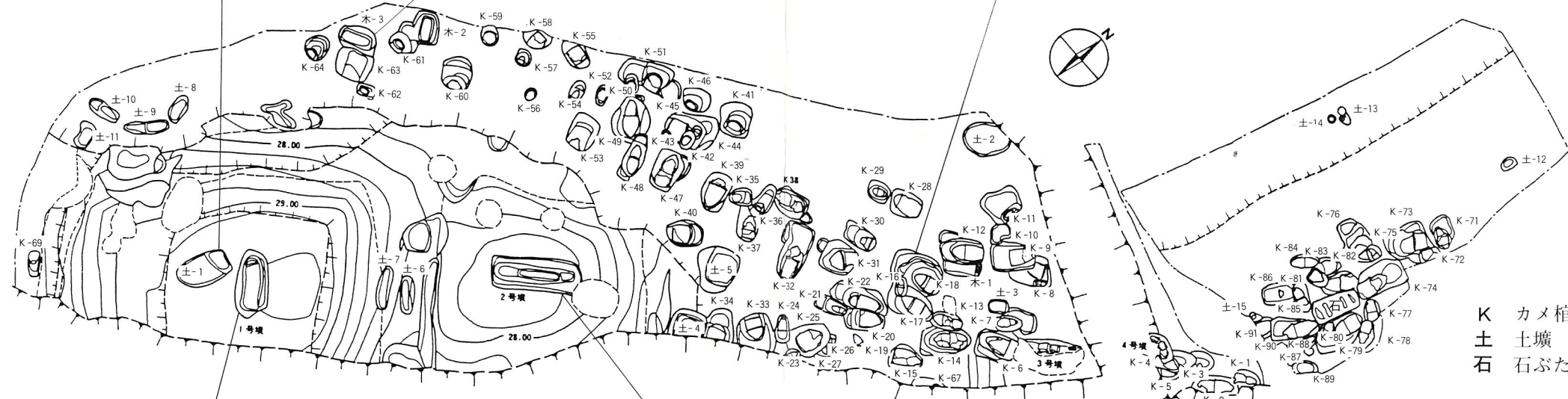
出土した土器



3号木棺墓
カメ棺墓より古い時代のお墓
で、床面には木板を立てるため
の溝が掘り巡らされています。



18号カメ棺墓
合わせ口式のカメ棺
墓です。棺には鉢とカ
メを使用し、粘土で丁
寧な目張りを行っています。



K カメ棺墓
土 土壙
石 石ふた土壙墓



1号墳
1辺13.5m 程の方墳です。主
体部は木棺で、小玉が2個出土
しました。



2号墳
1辺9m 程の方墳で、主体部
は割竹型木棺です。



石ふた土壙墓（右はふたを外したところ）

カメ棺墓とほぼ
同じ時代のもので
す。石ふたは、す
き間から雨や土が
入らないように丁
寧に粘土で包まれ
ています。

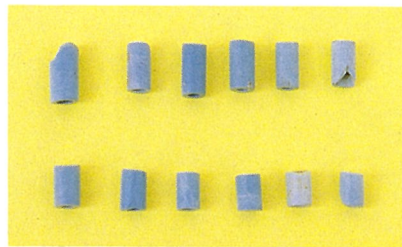
副葬品 (ふくそうひん)

副葬品とは、死者と共に棺の内に入れられたいろいろな品物のことです。めったに出土することは無く、これを持てることじたい、当時としては特別な地位にあったことを示しています。観音堂遺跡群では4基のカメ棺墓から剣や貝釧・玉などが出土しました。特に80号カメ棺墓から発見された貝釧は、種子島以南にしか生息しないゴホウラという貝で作られており、当時としては大変貴重なものでした。



石剣が出土した様子

14号カメ棺墓から出土したもので、先端のみが発見されました。



管玉

74号カメ棺墓から出土したもので、碧玉製です。



出土した様子



銅鏃 (どうぞく)

銅製の矢じりで、22号カメ棺墓から出土しました。



貝釧 (かいくしろ)

80号カメ棺墓から出土しました。現在のプレスレットのようなもので、釧は村長など力を持った人が着けていたと言われます。ちなみに、釧は3歳位の幼児の腕に着けられており、将来の地位を約束された人がいたことを裏付ける重要な発見となりました。

埋葬された人々

調査を行った91基のカメ棺墓のうち27基に人骨が残っていました。この骨を九州大学で鑑定してもらったところ、男女ともかなり背の高い人々（男性平均 観音堂 169cm 北部九州 162cm）であったことが判りました。



27号カメ棺墓

被葬者は男性で、両手・両足を折り曲げて埋葬されています。



右から78・79・80号カメ棺墓、石ぶた土壙墓、82号カメ棺墓

おわりに

カメ棺墓は、お互いが寄り添いまた重なるような状態で発見されました。そのなかで、特定の地位の人しか持てない副葬品が、一部のカメ棺墓から検出されたことは、同じ墓地に埋葬されながらも身分の差が存在したことを裏付ける重要な発見となりました。那珂川町では、まだ弥生時代の遺跡はあまり調査されていませんが、将来、資料の増加と共に当時の社会がより鮮明になる日が来ることでしょう。



1992年調査



那珂川町の文化財 Ⅶ
— 観音堂遺跡群の発掘調査 —

1995年

発行：那珂川町教育委員会
福岡県筑紫郡那珂川町西隈64-1

印刷：福博総合印刷株式会社